

磯 根 資 源 調 査

担当者 技 師 青 山 禎 夫

主任研究員 高 橋 邦 夫

I 調査目的

尻屋地先のエゾアワビについて資源量および生態を調査して適正漁場管理の指針とする。

II 調査内容

1. 調査期間 和昭和43年4月～昭和44年3月

2. 調査場所 青森県下北郡東通村尻屋地先

3. 調査項目

(イ) 漁場調査

(ロ) 資源量調査

(ハ) アワビの性状調査

(ニ) 産卵期調査

(ホ) 生長調査

(ヘ) 標識放流調査

(ト) その他

4. 調査方法

(イ) 漁場調査

漁場の特性を把握するために、後記の枠取り調査と併行して全枠内のスケッチを集録し、加えて実測や、魚探による記録も適宜おこなない、既存資料との総合調整をおこなった。

(ロ) 資源量調査

潮間帯の資源調査は、干潮時に尻屋沿岸に14～15の調査線を設定し、枠取り(4×4 m²)を行った。

枠は各調査線の干出地帯を沖に向つて進行し、最初にアワビがみられた地点から干出の程度に応じて1～5枠を設定し、徒手によつてアワビを採取した。

低潮線下のアワビについては、水深別にアグアラング潜水によつて2×2 m²の枠取りにより、生息状況を調査した。

(ハ) 生息アワビの性状調査

枠取り調査で採取したアワビの殻長、殻高、殻巾、重量を測定し、各種の解析をおこなった。

(ニ) 産卵期調査

産卵期を判定するため、季節ごとの標本を固定し、成熟度係数とプレパラート切片の検鏡によつて考察した。

(ホ) 生長調査

資源量調査で採取したアワビ及び別途に採取したアワビを用いて、マツフル炉（500℃、10～15分）を使用して年令の推定を行い、生長を調査した。なお、短期間の生長は標識放流によつても追求した。

（ハ）標識放流調査

放流年次によりクレモナ糸、ニクロム線、銀線、ステンレスクリップを用い、個体標識をおこない、再捕によつて移動、生長の追跡をおこなつた。

Ⅲ 調査結果

1. アワビ漁場である潮間帯、低潮線下はともに岩盤・礫石地帯が多く起伏に富んでいる。
2. アワビの主要生息地帯は潮間帯から水深15m程度までである。
3. 昭和43年の調査時におけるアワビの推定有効資源量は潮間帯 3.8×10^5 個、低潮線下 3.5×10^5 個の合計 7.3×10^5 個である。
4. 殻長4.5～7.0cmのアワビ推定資源量は 5.2×10^5 個である。
5. アワビは小形であり、殻長4.0～5.5cmに全体の61.1%（潮間帯68%）が含まれる。
6. 殻長（L）と全重量（W）の間は $W = 0.00013L^{3.06}$ 年令（t）と殻長の間には $L(t) = 12.02(1 - e^{-0.1378t})$ の関係がある。
7. 理論的極限殻長は12.02cmである。
8. 低潮線下のアワビは潮間帯のそれと較べるとやや大形である。
9. 尻屋のアワビは古来から小形で、生長が緩慢であつたと思われる。
10. 尻屋におけるエゾアワビの主産卵期は8月中旬から10月中旬までである。
11. 標識放流調査による生長は1年間で0～2.4cmで、移動距離はさして大きくないと思われる。

Ⅳ 考 察

生長が緩慢な漁場であるとの結論から、移殖用種苗の供給地として資源を活用することが有効と思われる。

・1969年2月 昭和42、43年度 指定調査研究総合助成事業

磯根資源調査報告書

（青森県尻屋地先のエゾアワビについて - 総括）参照